


きょう
今日は、ただおくんがくらす栄町のおまつりの日。
おじいちゃんもお兄ちゃんもみんな大いそがしです。
「お母さん、ぼくもおまつりのお手伝いがしたい！」


「あら、ありがとう。それじゃあ町に行っておそなえするおかしをかってきてもらおうかな。」
「わかった！行ってきます！」



「いってきまーす！」
げんきよく出かけたただおくんは、お気に入りの
青いリュックをもって町をあるいていきます。
おや？あそこにいるのは……



「こんにちは、ただおくん」
「おとうふやおじちゃん、こんにちは!!」
「ひとりでおでかけかい?」
「おかしやさんまでおつかいに行くんだ!!」



「おかしやさんか。それなら、ここのみちをまっすぐ行くとちかくにあるよ」
「ありがとう、おじちゃん!」
「^き気をつけるんだぞ」
「^{おお}て、^て大きい手をふっておじちゃんがおしえてくれた
みちをすすんでいきます。」



「こんにちはー！」

おかしやさんはいつもあまあいにおいでいっぱいです。

あちこちにおいしそうなおかしがならんでいて、

ただおくんもうっとり。

「今日はおまつりのおかしを^{きょう}買いに^か来たんだ！」

「それじゃあ、いまから^{つく}作るからみていくかい？」



木でできたかたに



ゆびでいろをつけて




おもちをつめたら

「ほら！お花のおかし^{はな}の^{かんせい}完成だよ」

「わあ！おいしそう！どうもありがとう！」





「もうゆうがただ。くらくなるまえにお母さんにとどけなきゃ！」

ただおくんはいそいでおまつり会場の神社にむかいます。

「わあ…！」



神社にはもう町のみんながあつまっていました。

「ただおくん！おかえりなさい！」

「お母さん！あのね、ちゃんとおかしかえたよ！」

「ありがとう、ほら、もうすぐおまつりがはじまるよ」

「ねえお母さん。あの人はなんでゆみをもってるの？」

「あれは"やぶさめ"ってね、毎年この神社でほうさくを
いのって矢をうつの」

「ほうさく？」

「ふふ、おこめとやさいがいっぱいできますようにってこと」



やぶさめがおわると、みんなでごはんを食べるじかんです。
町^{まち}でとれたりんごや、にんじんや、おいもがたくさんならんでいます。
ただおくんがかってきたおかしも、おいしそうにならんでいます。
おじちゃんたちもすっかりよっぱらって、みんな楽しそう。



「おまつりってたのしいね！
ぼく、らいねんもおてつだいするよ！」